

昭和48年 1月13日 第3種郵便物認可  
昭和53年 5月10日発行 (毎月10日発行)  
H S K通巻 61号

26

# あすなろ

— H. S. K —



個人参加難病患者の会「あすなろ会」

# みなさんから

## ベッドの上から

高木 せい子

拝啓

いつも会のためお世話下され、心よりお礼申し上げます。

私も病気になる早くも丸六年を過ぎ、現在もまだベッド上の生活しか出来ません。もう少し良くなれば、と毎日の様に祈っています。退院して一年三ヶ月になり、あまり良くもならず、悪くもならず日々を過しております。早く皆様と同じように入会して、どんな生活をしていらつしやるのか、又どんな療養をしていらつしやるか、交流が出来ましたらと思ってお便りしました。

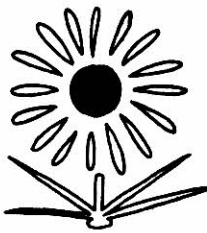
入会の手続き、会費等お忙しい事と存じますが、お知らせ下さいますようお願い申し上げます。

## 難病に対する認識を深めた

石田 久子

私の作品を「あすなる」に載せていただき、ありがとうございます。無知とは恐ろしいものです。心にあるものをそのまま言葉にしただけの作品とは、詩人はもつと言葉を選び、自分の作品に自信を持つでしょう。ところが私はぜんぜん、穴があつたらはいりたいくらいです。またぞろ無知が顔を出して雑文を書いてみようかな、と思ったりしています。ところで難病ってなんでしょう。世間では難病というトスモンか筋ジスなどがイメージとして浮ぶのではないのでしょうか。私もそう考えていた一人ですが、いろいろあるのです。認識不足でとても恥かしい。私の病気は、原因はもちろん病名もありません。私も難病にいられてもらえるかしら。多分脳の障害だと思ふのです。なぜかという、脳性マヒ特有のふるえる症状があるからです。これから先、いつたい私はどうなるのかしら。

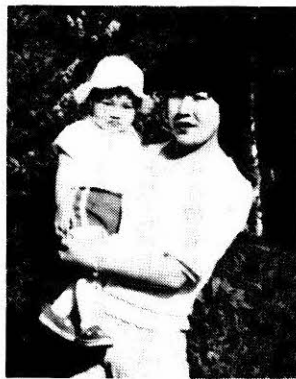
まずは「あすなる」のお礼まで。



## 病と闘いながらも

### 子供を育てるよろこびに

佐野 美恵子



四十六年膠原病、四十八年脈なし病、四十八年と四十九年十月頃までステロイドを飲んでいましたが、自分勝手に薬をやめ、先生もそのまゝ様子を見るということで、薬とはその時から今年二月まで完全にストップしました。

その間五十年七月に妊娠しまして、五十一年五月に男の子を出産しました。私達にとつて待ちに待った子供でした。結婚七年目でやっと子供に恵まれ、なんと言つていいかわかりません。まして、こんな難病にもかかわらずとても丈夫な子供で、この一年風邪などで数回病院の世話になつただけです。親が弱いから子供は丈夫に出来ているのでしょうか。先生は、薬を飲んでいない時でしたので、子供への影響はないので生んでいいとおっしゃられました。妊娠中は異常なく、つわりもほとんどなく無事十ヶ月までもちました。

まだその時は陸別でしたので、陸別から釧路へ四時間も汽車にゆられて、一人で月二回つづつ通院しました。でもほとんど不安はありませんでした。内科が釧路日赤ですので、同じ病院で出産するように先生に始め

から言われましたので。

四月から釧路の姉の所でお世話になり、予定日を十五日過ぎてやつとの出産でした。婦人科の先生は、なるべく自然分娩という事でしたが、子供の回転、子宮が開かないなど、悪条件が重なり、そのまゝ待つていては親も危ない、子供もバラバラにして出さなければ、という事だったそうです。それで帝王切開となりましたが、婦人科の先生もこのような病気の方は……との事でしたが、本人、家族の承諾を得た上で手術となりました。子供は二、六三五グラムと小さく、育つのかと心配でした。

手術後の経過も良く、二日目には歩く練習をしたりしました。五日目には子供も来ました。傷口がわり出し大変でしたが、自分の子供だと思ふとやはり嬉しさを隠しきれませんでした。入院中は血圧が少し上がり、それが二日程続き二日目の夜は看護婦さんが子供を預ります、と連れつかれ、情ないというか、こんなのが何回も続かなければと思うと、涙がとりとめもなく出ました。そのうち睡眠薬が効いて眠ってしまいました。それでも一回きりでした。そんなこんなで普通の方と同じく二週間で退院出来ました。

一ヶ月又姉の所で世話になり、数ヶ月で我家へ帰りました。それから毎日育児、家事と忙しい日々でした。子供が出来たので今までと違って、万が一入院したり病状が悪化した場合困るという事で、兄姉のいる釧路へ昨年九月引越して来ました。もう一年になります。

出産後の方が悪化するという先生のお言葉通り、今年二月頃より少しづつ具合が悪くなり、一週間に一度通院、薬も飲まなければならなくなりました。その後薬を増やしたり、減らしたりで現在までできています。七

月は血沈百ミリ以上もさがり、ステロイド一日二十ミリ飲んでいました。今は少しよくなり一日十五ミリでありますが、体の調が良いので自分で調節しながら飲んでいきます。

この発病後の妊娠、出産、育児と病気との闘い。貴重な体験を同じ病気の方に、とは思っているのですが、文章になるとむずかしく、なかなか筆をとられずにいます。若い女性の方が多いといわれるこの病気、結婚もあきらめ、病気と闘っておられる方もいらつしやると思うと、考える暇もない様に思ったりもしますが、言い訳じゃありませんが、子供が寝た時は自分の体もなるべく休めなければなりません。家の中の事も子供が寝た時じゃないと出来ない事も沢山あり、結構多忙な日々なので、す。

障害年金も今申請中です。私事ばかり色々書きましたが、もう夜も遅くなってきました。今日はこの辺で筆をおかせて頂きます。

又、お便りさせて頂きます。



## この悩み、

### どこに訴えればよいのか

児 玉 憲

前略 過日砂川難病連井氏の来客をいただき、色々話を聞きましたので、入会を申込致します。

会費は正会員は一年分はいくらで送金は砂川とは別に貴会に送金すればよいのでしょうか。

なお、簡単ですが、これ迄の病状及生活につきまして申し上げます。発病以後今年で六年二ヶ月であります。直接入院の原因は度々の腰痛の為に飲みつづけた酒が原因で肝臓を悪くし、自から断酒の為に精神科に入院三ヶ月。この時から足及腰の病状悪化原因は腰辺リウマチ及椎間板ヘルニヤとの事でしたが、五十二年五月腰の裏にある神経を悪くい腰骨が押ししている為に二十四時間痛みが止まらない、又これが足(右)にも主要原因らしいとの判断が出たのであります。目下治療は外科的には麻酔治療及針等あらゆるものを致していますが、骨裏の神経の障害らしいとの先記の診断の通りで、これ以上の方法は現代医学ではないとの事であり、ます。

今日迄診断を受けましたのは、札幌、国立病院、日大医学部、東大医学部、私の出身校の新潟大学医学部、旭川医大等々地元の病院も加え十、五ヶ院にわたりましたが、同じ診断か原因不明でありました。外科以外の病名はアルコール中毒の予防の為の治療と自立神経失調及神経性



# 指定も受けられず

## 治療方法もまだない!!

病に打ち克つ——それには多大な努力が必要だ。しかし打ち克つ術さえない病がある。それが難病。その難病の中でも、難病の指定も受けられず、患者の数さえ定かでない病気がある。レックリングハウゼン氏病——この難病と闘い、苦しみを乗り越えた青年がいる。大久保尚徳君だ。

### 調査対象にもなっていない

昨年の春、札幌商科大学に新設された人文学部人間科学科に札幌山の手養護学校高等部から一人の青年が入学した。大久保尚徳君、二十歳である。この大久保君は、レックリングハウゼン氏病という、患者の数も少ない、治療方法もなく、原因不明の難病患者でもある。

レックリングハウゼン氏病——多発性神経繊維腫ともいわれる病気で、体のあちこちに、末しょう神経が突出してきて円形の腫を作るといってもいい。大久保君の場合はこの腫が顔に出ている。この病気のため、舌がよ

じれたようになり言葉が若干もつれ、右目は大きくはれ上った状態になっている。急激に病気が進むことはないが、脳の末しょう神経に繊維腫ができると、その先に待っているのは死——である。

これほどの難病でありながら国から難病の指定は受けていない。それほどばかりか、調査研究の対象ともなっていないのが現状である。理由は、患者の数が極端に少なく、少しでも病気の進行を止められるという手だてがただの一つもないからである。「難病だからこそ、国などから援助する必要があると思うのですが、これは現代の医療の矛盾といえるのではないのでしょうか。あまり人に知られたくない、というのが難病患者を持つ家族の考え方なのですが、私の息子の病気が社会の人たちに知ってもらふことによって、この病気への認識が高まってくれるのならと思ってお話するんですよ」

大久保君の父親であり、個人参加難病患者の会「あすなろ会」の会長である大久保尚孝氏はこう語る。

大久保君が小学校に入学したのは熊本。病気が相当進んでいたため、入ったのは特殊学級だった。しかし、神経繊維腫ができてくるとはいえ

知能は普通である。この熊本で二年生まで学び、お父さんが銀行勤めだった関係で栃木へ。ここで、何故か二年生を再び特殊学級で送り、一年後に普通学級に入ることになる。そして、札幌の山鼻小学校へ転入してきたのだが、このころになると顔がはれだし、だんだん周囲の子供たちから奇異の目で見られるようになった。

それがつらくて、尚徳君が「僕の病気は手術すれば治るはずだから、早く手術して」

と、子供ながらに得たわずかな医学知識で、両親を困ませたのもこのころだった。手術どころか、原因すらわからない病気である。大久保氏は、何と答えたらいいかわからず、「脳に関係のある病気だから、手術するのが難しい。もう少し待とう」といつて聞かせる以外になかった。

こうした苦しみから救うため養護学校へ入学しようとしたが、歩いて話もでき、安静にしている必要もない尚徳君には入学資格がない。それでも、山の手養護学校では「こうした子供を救うために養護学校がある」と入学の便宜を計ってくれた。こうして尚徳君は、周囲の子供たちから病気に対して奇異の目を向けられることなく、学校に通うことができるようになったのである。

## 「人間の研究をしたい……」

その後、山の手養護学校の高等部に進んだわけだが、高二のとき尚徳君は「何をやりたいか」というお父さんの質問にこう答えている。

「人間の研究をしたい」

この希望にピッタリなのが、昨年新設された、札幌大の人文学部人間科学科だった――。

それまでは、自分の病気のことを思っただけか、自暴自棄になり、勉強も自分の興味のある勉強以外はおろそかになりがちだったが、「人間科学科」という目標に向かって、モータリッに勉強をするようになった。

この尚徳君のガンバリが奏功して札幌大に推薦入学ができたのだが、現在、山の手養護学校に学ぶ生徒の進学希望者がすべて大学に入れるわけではない。入学試験以前に、身体に障害のある者は、施設が完備してないため、入学したくても断念せざるを得ない人も多いという。「たとえば車イスを使わなければならない生徒は、まず大学に入ることはできません。階段を登ることはできませんし、一人の学生のためにエレベーターをつけるわけにはいかない。もちろん学校側では、受験をさせないとはいませんが、通学に大きな困難な点があるのをあげ、よく考えてほしいといっています。結局あきらめを得なくなるんです」

山の手養護学校の和田秩教頭は、養護学校から一般の大学に進学する難しさをこう語る。たとえ勉強が好きで成績がよくても、身体の障害のために進学をあきらめなければならない生徒が多いのだ。

また、これは就職を希望する生徒にとっても例外ではない。養護学校に学ぶ生徒は、就職しても、一日三、四時間しか働けなかったり、治療のため週に何回も通院しなければならない人も多い。そうした生徒を労働力として使おうという企業はごく少ない。また、身障者の授産施設にしても、入院するまでもないがかなり重度の病弱といった患者は受け入

れない。こうした人たちは、自宅でじっとしている以外にないのだ。

「親が生きているうちはいいのですが、もっと歳をとって、一人で生きていかなければならなかったら、こうした人たちはどうすればいいでしょう」

もっと病気の人間に理解を持ってほしいと、和田教頭は訴える。

このような中であって、難病中の難病患者という点を除けば、尚徳君のように、大学側の理解と援助を受け、自分の学びたい学問ができるのは、まだ恵まれている生徒だといえる。山の手養護学校では、尚徳君のような生徒によって同校に学ぶ生徒がもっと多くの方面で社会に関わっていくべき道が開けるよう、大きな期待を寄せている。

## 将来は養護学校の教員に

今尚徳君は学校から二、三分の距離の場所に下宿している。その下宿から、九時に始まる一時間目の講義があるときは、八時には教室に入り一番前に席をとっているという。授業がない時間は、図書館で勉強しているか、クラスの代議員として生協に顔を出す。とにかく読書が好きで毎日一生懸命に勉強している。この姿を見て、尚徳君の入学に関して五時間にもわたって話し合いを行った教授会も一安心しているところだ。

同大学の理事でもある中野徹三教授も、尚徳君についてこう語る。

「入学に際して、大久保君は決意書を書いてきたのですが、字もきれいだし、文章もしっかりしている。毎日登校してきて、欠かさず授業に出ている。入学前は、他の学生がぶつかったりしないかなど、ずいぶん心

配しましたが、他の学生も彼をいたわってくれてますし、スムーズに  
いって、安心してるところです」

真面目——これが尚徳君に対してだれもが持つイメージだ。その中で  
尚徳君は、毎日一生懸命に勉強に取り組んでいる。

去る九月十六日、英語の試験を終えたばかりの尚徳君にインタビュー  
をした。

——大学生活が一番楽しいことは

「友達と話ができることです。養護学校ときは、みんな同じような境  
遇にあるため、話をしなくてもわかってしまうところがありました。し  
かし、大学ではいろいろ考え方の違う人たちと話し合うことができます」

——今まで一番つまらなかったことは

「僕の顔がごらんの通りなので人から避けられることが一番つらい。特  
に女性はほとんど近づいてきてくれません」

——これからの夢は

「病気のため、できるかどうかわかりませんが、まず四年で大学を卒業  
すること。それに教員の免状をとりたいですね。そして、できたら養護  
学校の教員になりたいです」

尚徳君はトットツとこう語ってくれたが、はたして、尚徳君が大学を  
卒業し、教員として一步を踏み出すころには、第二、第三の尚徳君が希  
望に燃えて勉学に励み、また職場で一生懸命に仕事に取り組むようにな  
っているだろうか。さらに、座して病いの進行を見守るしかないレック  
リングハウゼン氏病の治療法が見つかっているだろうか。

(ろんだん、十一月号より)



## あすなる会の

### 皆さんありがとう

小倉朝子

この度は主人の弔事にあたりまして、御多用中の処御鄭重なる御弔詞、又御香料まで賜りまして恐縮に存じております。会員とは名ばかりの、何のお役にもたてない私共でございましたのに、心暖まるお手紙、お電話をいただきまして厚くお礼申し上げます。

十二年間の闘病生活でしたが、そのものが私共の生活でした。あまりに突然でしたので（この時があることは想像しながらも）まだ信じられない気持ちで居ります。哀しみは尽きることなく毎日毎日想い出をたどり泣きながら故人をしのんでおります。

総会のご案内もいただいておりますが、残念ですが実家の方へ行く予

### 「闘病生活十年に思うこと」

小倉俊雄

最近よく遠い昔の学生時代の夢を見る。それは健康でリスのように敏しような運動神経で好きなスポーツに夢中だった頃を懐かしむ気持ちが夢になって現れるのであろう。よく過去をふり返ってばかりいては人間進歩がないと言う。これは事実その通りであろうけれど病魔に侵され、今や肉体的に全く人間性を失い、生ける屍同然にな

定にしておりますので、出席出来ません。皆様の御厚情を糧とさせていただきます、明るく強く生きるつもりでございます。皆様にもよろしくお伝え下さいませ。

同封下さいましたろんだんの記事「レックリングハウゼン氏病」読ませていただきました。どんな思いでこの病いと闘っていられるのか、想像することも言葉でも言いつくせませんが、それにもまして御子息様の強く明るく苦しみを乗り越えた姿を想像しながら、ご立派さにただただ頭が下がる思いです。

限られた小さな世界の中で、大きくたくましく充実した日々を送っている尚徳様の事を考えました時、私など本当にはずかしいです。健康のありがたさをつくづく感じました。一日も早く良い治療法が、そして進行が止められる手だてが出来ますことをお祈りしております。

生前主人が書いたものを同封しました。皆様の御役に立てば幸いです。会員の皆様にくれぐれもよろしく御伝え下さい。まずはお礼まで。

ってしまった私には未来と言う言葉などはない。この病に取りつかれてからもう十年が過ぎようとしている。ひと口に十年と言うが、あまりにも症状が蔭惨をきわめ、その肉体的、精神的な苦しさのためか、もう何十年も経ったような気がしている。

発病当時、私は札幌市郊外のある社会福祉施設の指導員として勤務していた。私の父は四十年近くの間、社会事業家として生涯を恵まれない子供達のために尽くしてきたが、私も兄と共に、この父の仕事を継ぐべく、その為の準備期間として実習していたのである。ここは忙

しいところで、夜、自室に帰り寝る時だけが自由時間と言うぐらい、かなり心身共にきつい仕事であったが、夜、日誌を書いていて何となくペンを握る指に力が入らず、右腕がピクピクとけいれんし始めた。たぶん日頃の疲れが出たのであるうと軽く考えていたが、それが「生ける屍」とも言える現在の財残への序典であったのである。運命は唐突に何の予告もなしに生身の人間に襲いかかってくる。交通事故・死・そして病氣…。

やがて徐々に筋肉が脱力状態になり、重い物は片手で持つことができなくなつた。そして左手にも同じ症状が現れたのは半年後であった。最初、北大病院で診察を受けたが病源が判らず精密検査のため入院したが、それでも判らず、外見的には仮病と思われても仕方ないような厄介な始まりであつた。病が進行するにつれて、多少なりとも仕事に支障を来たすようになったため、施設を辞めさせてもらい、その後、暫くして東大病院での診察を受けるべく、四十年六月に妻と共に上京した。東大での診断は「進行性脊髄性筋萎縮症」の疑い、と言うことであつたが、半年後、右足に症状が現れたのを機会に慶応病院へ行き、当時病院長であつた相沢教授の二、三〇分に及ぶ入念な診察を受けた。診察が終了控室で、おぼつかない手付きで服を着ている私のところへ間もなく若い医者が来て、こともなげに言ったものである。

「診察の結果あなたの病氣は筋萎縮性側索硬化症です。これは原因は未だわかっていません。さしあたり入院の必要はありませんが、リハビリテーションで機能訓練をやつた方が良いでしょう。」

私は初めて聞く長い病名に啞然としてもう一度病名を訊き返した。そして当然のことながら、病氣が進行して末期的症狀になつたときの悲惨さを、私はその時の医者の言葉からは察することはできなかった。医者から疾患と治療法について一言の説明もなかつたことが、今になってみると納得がいくのである。

ここで疾患について少し説明を加えるが、複雑多岐な神経病の中でも極めて特異的で、最も予後の悪い難病の一つとされ、脊髄及び延髄の運動神経とそれよりでている末梢運動神経を選択的に侵するものである。例外なく運動機能の殆んどが侵され筋萎縮は全身に及び球マヒ症狀による絶命はまぬがれず、普通は発病から二、三年、長くても十年とされている。この病にかかると、遅かれ早かれ確実に死に至るところから、ガンに匹敵する病とされているが、思考が侵されないのに手足は奪われ言語も閉ざされて、喜怒哀楽の表現すら満足にできなくなる。このような計り知れない患者の苦痛を考えるとガンなどの比ではないように思う。

私も発症から十年、症状は末期的とも言える状態である。今では楽しいはずの食事も苦痛に変わってしまった。日に一、二回は必ずと言って良い程食物が気管に入つてむせ、呼吸困難で七転八倒の苦しみを吐き出すことも出来るが、いずれそれもできなくなり、肉体的寿命の終る日の来るのもそう遠くないだろう。ゆえに、この病による直接死因の殆んどがこのことによる呼吸マヒとされている。また就寝中、全身のこわばりや、筋肉のこむら返りなどで何度も目を覚まし、安眠でき

ないことも私の大きな苦しみの一つとなっている。

こうして十年もの長い闘病生活をふり返ると、人知れぬ苦しみの連続であった。その間、焦燥し葛藤を繰返し自分の存在はもはや無価値とは思えず、ひどい自己嫌悪に陥り、そのたびに自からの死を真剣に考えたし、実行して妻に発見され未遂に終わったこともあった。また癒えぬまま死ぬまでこの苦しみが続くのならと思うと、自分の体を床に微塵に叩きつけい衝動にかられたことも度々あった。しかし、その気持の裏でこのような病氣と知りながら、自分は治る、いや治してみせる。そしてもう一度男として仕事がしてみたい。そんな強い願望が私を鞭打ち、考えられるあらゆる療法を試みた。長足な進歩を遂げている現代医学を信じながら……。

しかし如何に強い信念と科学をもつてしても、この病の進行は防げなかった。最近、私はもう殆んど全てを諦めることで少しでもこの苦痛、苦悩を軽くしようと思うようになった。それにしてもよく今日まで狂うこともなく正状な神経を保ちながら頑張つて来られたと思うが、ここで私は妻の大きな助力があつたことを考えなければならぬ。三年ほど前から食事から一切人手を借りなければならなくなつた私にとって妻は正に手であり足である。過去十年間の闘病生活に妻は、こんな愚かな、こんな体の私を大切に守り、一人前の男として、また夫として誠意と誠実と信頼をもって私を支えてくれた。もし妻がいなかったら私はとうに挫けて息絶えていたかも知れない。私には過ぎた妻である。勿論、そのような妻の気持に甘えればかり居た訳ではなく、今の生活から解放してやらなければいけ

ない、自分の不幸の道連れにはできない、そんな権利は自分にはない。

そんな気持がいつも離れず、走馬燈のように頭の中をかけ巡っている。そんな自分の気持を機会ある毎に妻に話すが、その度に妻は「自分だけが幸せになろうとは考えていない。自分は健康なだけでも幸せだと思っているから。」と言う。その度に私の決心は鈍り、そんな妻の気持ちに甘えてしまうのである。健康こそ活動の母胎ではあるが健康な人には解らないだろうと思われる二人だけの幸せがある。また、病弱な私に対する肉親の愛と回復を願う切なる祈り、そして多くの友人達の励まし、私を取りまく心温かい人々の善意は大きな心の支えであった。自分が病氣の辛さを受け止めかねて、ともかく死にたい、一時も早く死にたいと考えていたとき、そんな精神的に極限状態に置かれたとき、これらの多くの方々の励ましや善意を思うと、ナニクソ負けられないという気持にかえることができた。多くの学友一人一人が励ましの言葉と見舞金を寄せてくれたこと、みなさんからの種々の援助に對し感謝し頭張らなければと思っている。もつとも、今の自分は手足が利かないと言うより身体全体がない、全部が欠けてしまつて人間として適用しないところまで来てしまつている。目と耳以外は舌、首、肩、背中、腹、腰、それらの筋肉が皆萎縮し脱力してしまつている。私の小さい頃から家は貧乏であつたし、父親が厳格であつたのでしつげが厳しく色々な点で耐えることを教えられて育つたように思っているが、この病氣ほど又健康な時と違つた意味で自分を鍛えてくれたものもないと思つている。これほど悲しい病氣も知らない。しかし、本当にいろいろな事を教えてくれた。何と言うか、辛い悲しいと思いな

闘病生活の中で愛する父と母の遠い旅路を見送ったのでした。こんな悲しみの中で幾度か挫けそうになる私を反対に励まし支えてくれたのは病人の夫でした。

あれから十年、西洋医学にもとより東洋医学のハリ、灸のあらゆる治療のいかにもなく、又時折訪ねてくれる親、姉弟、友人の暖かい励ましもよそに進行をくい止めることなく筋萎縮は全身に及び、もう末期の症状ともいえる言語障害にまで及び人との対話さえ閉ざされてしまったのです。聞くところによれば、この病は発病から三年、長くて十年生きられれば良いと言う。夫の場合、幸いにして内臓が丈夫だったこと、又精神的強さがプラスして十年を経過しましたが病の苦しみと医療の現状を考える時、はたしてそれが幸いだったろうかと複雑な気持ちにかられます。かろうじてペンを持つこと以外身動き一つ自由にならない今の夫に頑張って生きてほしいと言うのは苛酷すぎるような気がしますが、十年頑張ってきたのです。回復を願う肉親の大きな愛のためにも、もう一息頑張ってほしいと思います。

すべて運命と割り切るにはあまりにも惨めすぎます。せめて足のこわばりだけでもやわらげてほしい。そして夜だけでも安らかに眠らせてあげたい、友人と昔話を心ゆくまでできたなら……。また三度の食事が気管に入っている心配なく美味しく食べられるように……。欲は言わない、どれか一つでもかなえてほしい。それでなくては、未来に何の保証もなく、だんだんに萎えていく夫の姿を目のあたり

にみて、どうすることもできないなんて辛くて悲しすぎます。

ほとんど、ここ二、三年身動き出来なくなつてからは、逆に神経が鋭敏になり、気むずかしさが増したようです。でもこれだけの病気をしているのです。当然のことかもしれません。私などは、指一本痛めてもわめきちらす仕末なのに、もしも夫のような状態におかれたら、はたして大きな気持ちで病気を受けとめることが出来るだろうかと思ふと、全く自信はなく、夫の強さをつくづく感じるこの頃です。

苦しみの中に生きているような今の夫にも、病を忘れ、心やすらかな一時があるとすれば、それはスポーツ中継のある時と音楽を聞いている時かも知れない……。野球、サッカー、ボクシングなんでも好きであるが特にサッカー、ボクシングのある時はテレビの画面にすいつくような感じで我を忘れて楽しんでいきます。又、好きな名曲に耳を傾けている時、辛さも半減するのでしょうか、目をつぶって静かに聞き入っています。そして夫は歌がとても得意でいつも大声で歌っていたのですが、今はそれもかなわず、ナツメロや青春時代の歌が流れてくると感動したおもちで楽しんでいきます。こんな時だけが私の心を同時にほつとさせてくれます。頑張り屋の夫だから、いつの日か「じゃあいつてくるよ」と言つて元気な姿で出かけて行く日がきつとくると信じておりましたが、もうそんな日は永久にこないかも知れない。でもこのままでもいい、生きていてほしい。そのためにも一日も早く原因の究明と治療法の確立を望んでやみません。

昭和四十九年十二月記

## やはりいつも不安が

奈良節子

勤医協新聞で「あすなる会」の会誌を、無料で配付している事を知りました。私にも一冊お送り願えませんか。私はサルコイドーシスの患者で、もう十三年近く治療を受けている者です。サルコイドーシスの患者組織があるかどうかわかりませんが、もしなければ「あすなる会」に入会したいと思っています。

詳しい事がわかりましたら、お知らせ下さいませんか。会誌の送料がわかりませんが、とりあえず一四〇円分の切手を同封しておきます。よろしく願います。

「あすなる」おお送りいただきましてありがとうございます。「あすなる」に記された様々の病気に苦しむ方々の、ひたむきに生きる姿に、私も頑張らなくては、と励まされました。入会させていだいても、何も出来ないのではないかしら、という不安はありますが、少しでも私の

心の支えになればと思い入会する事に致しました。どうぞよろしくお願ひ致します。

別紙に病気の事、経過など書いておきましたので、これで私の病気を御理解いただければ幸いです。

### △病名▽サルコイドーシス

この病気は、肺、リンパ節、目、肝臓、心臓、骨、筋肉、その他ほとんど凡ての臓器や組織に現れる全身性疾患で、類肉腫症と誤されている。患者数は全国で三千〜三千五百人、本道では約三百人といわれている。(二、三年前の道新より)

### △発病▽昭和三十九年十二月、二十一才。

銀行に勤務して三年目の時、仕事、組合活動、その他でかなり忙しく、すっかり疲れきっていた頃、目が少しかすんできている事に気付き、眼科で「ぶどう膜炎」と診断される。その後微熱と倦怠感があるので、内科で調べてもらったところ「サルコイドーシス」と分る。

### △経過▽

眼のぶどう膜炎は一年位通院して治り、今は異常なし。初めの頃は自然治癒の可能性がある、ということ治療はせず、定期的に胸部レントゲン写真だけで経過をみていた。二年後に、それまでかかっていた銀行の医務室から、鉄道病院を紹介され、以後ずっとそちらで診てもらっている。

時々ひざがサビついたような感じになったり、リンパ腺の異常のせいだと思のですが、脇の下や足のつけ根が何とも言えないだるさで悩

まされましたが、一晩明けると治っている、という状態で、子供が生れるまでの七年間は薬もほとんど使わず、割合快調に過せました。四十六年、二十七才で結婚。翌年七月に男の子を出産、その三ヶ月後からセキが始め、この時から薬（副腎皮質ホルモン）を使い始める。

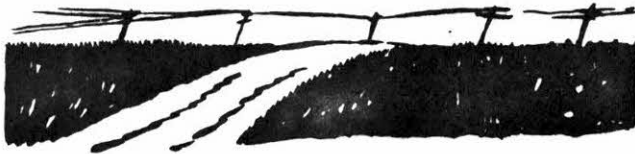
薬を使い始めると、ひどくセキこんで疲労もはげしかったのがうそのようにおさまり、とても元気になる。

薬は一年のうち数ヶ月休みます。その間は症状がぶり返し、とてもつらい思いをします。現在、昨年からずっと休みなしに薬を使っているので、割合調子の良い状態です。月に二、三回札幌へ通院しています。

#### △不安▽

あまり深刻になることなく、のんびりと過していますが、やはりいつも病気に對する不安がつきまといまいます。最近薬の量が減ってくるとすぐぶり返すようになってきていますので、とても不安です。一日も早く原因が究明され、副作用のない特效薬が出来るよう願っています。この病気は、子供にも発病する可能性もありますので、子供の健康も気にかかります。現在五才になり、とても元気に過しています。

△家族▽今年七月に家を新築し、夫の母も同居するようになって四人家族。夫は航空会社で働き、三十四才、母は五十四才で共に健康です。母と家事を分担するようになって、ずい分楽になりました。疲れた時にはいつでも休む事が出来ますので、心から感謝しています。



夏頃膠原病との診断を受け、通院中。年々病気が重くなりますが、子供のために朝晩起きているようにし、日中ほとんど寝て暮しております。病気にヨーグルト菌が良いと聞いておりますが、伊達では入手出来ません。お心当りありましたらお教え下さい。ゼンソクの時ばかりにんにくを1-3入れて約一ヶ月おいたものをうすめてのんだり、なめておりますと、大変良くなります。他事ながらお知らせまで。

総会に出席出来なくて残念に思っています。役員の皆様のお骨折ありがとうございました。大切に、今後共よろしくお願い申し上げます。

菊 地 美智子

東京でも府中病院、神経科学研究所を中心に、いろいろの活動が続いています。

木下安子、川村佐和子氏にもよろしく。

酒 井 ツ ネ

とても寒くなって参りました今日この頃ですが、昨年よりも今年の方が体の具合がいくらか良く、子供と共に楽しい毎日を暮しております。又、総会にも一度出席してみたい様な気持ちにもなって来ましたが、下の子供がまだ小さいものですから、なかなか実現出来ません。いつか同じ病と苦しんでいる仲間と話し合える事を夢んでいます。

武 下 絃 子

度々の連絡ありがとうございます。長くなるすにしております返事がおくれました。現在の病名は広 性エリトマトデイスで外科に又胃の外がわに卵大の物が出来ているとの事です。何となく体の調子が悪くこまります。

竹 谷 宮 子

風邪もひかずに元気に学校に行っております。来年は小学三年生で、勉強もだんだん遅れていくようですが、マイペースで進みたいと思っております。成田さんによろしく。

佐 藤 陽 子(父光司)

一段と寒さが増してきたこの頃です。先日はお電話で失礼致しました。いつも欠席で申し訳ございません。

体の方も余りバツとせず、検査が思わしくなく現在ステロイド二五㍉です。薬をのむのはあまり良くないと思い調整しながらのんでいます。寒くなり子供を背負う事が多くなってきたからかも知れません。皆様もどうぞお体を大切になさって下さいませ。会員の方々にもよろしくお伝え下さいませ。

佐野 美恵子

左足小指爪先に「キズ」があり、歩行できず欠席しますのでよろしくお願致します。

難病患者に対する身障者手帳交付にあたり、医者の方の考えがわかりません。私の身体は両足親指切断、右足小指第一関節切断、右手中指切断のため、道路歩行約五分以内しか歩けません。身障者になりませんので相談お願致します。私と同じ方がいると思っております。

桜井 秀明

最近は少し落付いておりますが、二週間おきに病院に行っております。皆様には申し訳ございませんが、札幌迄は今年は無理のようですのでよろしくお願致します。会費の事ですが、お送りしたらよろしいでしょうか、お知らせ下さい。今ブレドニン〇〇をのんでいます。

浅原 郁子

去る九月中旬頃より足の部分の痛みと、腰から下肢にかけてのたるさがあり、再度入院かと思われたが、現在その苦しさもほとんど薄れましたが、今のところ足の指全体が赤く、又、少し痛みが出ます。毎回出席出来ず残念に思っています。皆様によろしく。

伊藤 良男

十二指腸、胆のう悪いので検査のために医大に通って居ります。特定疾患の交通費、年金など希望しております。

橋本 ヨリ子



## どう政治を変えたらよいのか

藤原コト

あすなる会の皆様には、その後いかがお過していらっしゃいますか。この夏は本当に冷たい夏で、私は半袖にスカートと言う軽い身なりを出来たのは、まだ両手に満たない数で、それも日中だけで、朝夕は長袖にズボンといういで立ちでおります。

冷えには一番弱い私の病氣（大動脈炎症候群）は、左側半身がまるで寒暖計の如く気候に敏感です。でも暑ければ暑いですぐダウンしてしまいますし、この苦痛には生きているうちつき合わなければならぬと思いと、もう目の前が真暗になってしまいました。只一つ人並なことと言えば、体の横巾が少し広くなってきたことだけでしょう。これは副じん皮質ホルモン剤、ステロイドの長期服用のために、何を食べてもおいしいからだだと思います。しかし、これも喜んでだけおれない恐ろしい副作用がかくされている特効薬なのです。毎日が大河を一本橋で渡っている様な気持でおります。

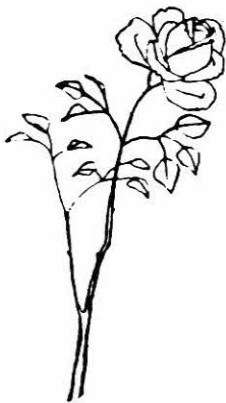
医薬が進歩して、薬禍の犠牲者が増えている時代です。そのために「薬は毒だ」とよく聞きます。現に、私も今の病気の初期に敗血症と診断されて、ストマイの特効薬の副作用で全聴力を失った、被害者の一人なのです。音の全くない世界で、そしてもう治ることもない難病と、二重の苦の中で自分と言う一人の人間の将来の事を考えたりすると、もう気が

狂いそうになったりします。……世の中は上を見て、下を見て……と言葉がありますね。世の中には私よりもっと悲惨で、どうする事も出来ない運命に生きていられる大勢の方がいることを自分に言い聞かせ、がんばらなくちゃ、と思っています。

こうした中で、今回の参議選に身障者の八代英太さんが当選出来たことは、本当によかったと思うと共に、大きな福祉の躍進であると思います。テレビの番組では各局とも八代さんの当選を祝福して、激励をしていました。私にしては無声テレビ、何をどのように訴えられ、叫んだのか聞きとれなかったが、あの全身ににじみでていた表情に、同じ不慮の身障者となった、いきどろりに私はすなおに涙を流しました。

今後弱者の代表として、どう政治を変えるか、それは私達ももっと強くなることでもあると思います。私と社会のパイプと言えば、新聞ぐらいいから、至って世の中知らずで、ポケッと暮しております。神経を使うとそれだけ病気を増強することにもなりますので……。

あすなるの皆様、くれぐれもお体をいたわりお暮らし下さい。



# 「あすなる会」へのよびかけ

—あなたも同じ苦しみを持つ仲間とともに

頑張りましょう

あすなる会  
副会長 重 金 尊

ちょうど一年前私達は息子の二度目の入院中に「あすなる会」に入りました。健康な人といくら話し合っても理解し合えないものが、病院で苦しんでいる者だけにしかわからない大切なものがあると思います。誰でも病気になったら「早くなおそう」という気持ちになると思います。私達も病気になって何ヶ月か「どんな事をしてでも病気をなおそう」と考え、悲壮な決意を持ったものでした。しかしそれはなおりずらい病気であればあるだけ、苦しみが大きく、又何度も挫折しそうになる暗い家庭にしかならない事を教えられました。

あなたは気持の上で、今自分の病気をどう感じているかわかりませんが、私達にとっては「あすなる会」の人達との出会いはどれだけ心の支えになっていくかわかりません。病気をなおそうという気持ちばかり持ってあせてはいけません。病気そのものが、日常、食事をしたり、眠たりするものと同じように、生活の一部と考えなさい。そして家族の者（特に母親）が暗い気持にならず、明るい気持で子供と接してやりなさい、と教えられました。どんなに真剣に病気と闘っても、難病は何年もかか

らないと良くはならない、それよりも今の状態より悪くならないよう努力する事が大事だと教えられました。

病気になってしまった以上、病気を恐れてはだめだと思えます。どんなに注意しても、又再入院する覚悟は持たなければならぬと思えます。又、逆にネッローゼに限らず、他の病気でも言える事ですが、少し体の調子がいいと言う事で病気そのものを甘くみないで下さい。家内にきく範囲では、あまり心配ないと思えますが、今の状態より悪い状態が続くと一生取り返しのつかない事も考えられます。今の状態より悪くならないようにするのが大切な事ですが、そのために、風邪を引かせない事が第一に大切な事だと思えます。そして第二に家庭の主婦であるあなたの場合は、なるべく家庭の仕事の負担をかけないで安静にしている事だと思えます。

現在私の息子は、一ヶ月に一度の検診で済み、毎朝自分でも検査をしているので、安心して表で遊ばせています。いい状態の時は他の人と同じように大胆に遊ばせ、いくらか悪い時には気をつけています。体が良

くなればなんでも好きな事が出来るのですから、悪い時には細心の注意が必要と思います。そして良い状態をなるべく長く続け、そして完全にいい状態が続く時には自分の体を試してみる事だと思えます。

ネフローゼは、子供がほとんどで、あなたのように大人にはまれにしかないのでかかってしまったのはほんとうにお気の毒に思います。しかし、私の息子にしても動先で三百人以上もいる職員の中で、わずかに二人の中に入ってしまったのですから、お互いにその不幸から立ち

直って力を合せていこうではありませんか。

私達の囲りには意外と病気で苦しんでいる人が多いのです。私自身が「あすなる会」に入って、どんなに心の支えになったか知れません。そのため、そういう人に一人でも多く一緒に病気を考えていただきたいと思えます。あなたも一人で苦しまず、ぜひ「あすなる会」に入っているいろいろな人達と話し合っていたいただきたいと思えます。お互いに頑張りましょう。

## あすなる会第五回定期総会報告

遅くなりましたが、十一月二十七日に開催されました総会の報告をいたします。毎回の事ですが、会員の皆様それぞれ病氣と共に生活している中で、年に一度の総会ですが、出席する事体大変な事であり、参加したい気持があっても出れない事が現状だと思えます。でも、少ない出席者ではありましたが、皆さん熱心に討論していただきました。以下総会次第に従って経過を報告致します。

### 一、開会の挨拶と亡くなられた会員の冥福を祈り黙祈

橋本央子さんの司会により開会、一年間の間に不幸にして亡くなられた三名の会員の冥福を祈り、全員一分間の黙祈をささげました。三名の会員の方は次の通りです。

### 一、来賓の紹介

五十二年四月にあすなる会より独立した「全国パーキンソン病友会北海道支部支部長田中さん及び役員の大竹さんが見えられ、田中さんより会まであすなる会にお世話になったお礼と、会の困難な現状と話され挨拶されました。又、あとから見られましたが、本日医療相談をお願いした北海道勤労者医療協会中央病院内科医長の山田一範先生も紹介されました。

### 一、議長選出と出席者の紹介

引きつづき橋本さんに議長をお願いし、出席者全員簡単な病気の現状と自己紹介がありました。

## 一、五十二年年度活動報告

大久保会長より一年間の活動報告があり、この中で特に、①四月二十九日難病連の協力を得て、パーキンソン病友会北海道支部を発足させたこと。②組織的な運営が出来るよう会則を全面的に改訂した事。③会員名簿を整備し、病類別に役員が担当して電話や手紙による交流が出来ること。④「あすなる会のしおり」と七月十日発行の機関誌「あすなる」によって、多種多様な難病に苦しむ私たち患者や家族の苦しみを社会的にアピールし、多数の方に、賛助会員として入会いただいたこと。⑤難病連の諸行事に対して従来よりは協力出来た事等、一年間の成果として報告ありました。

役員自身も病弱や、仕事を持っていない中で、十分な活動は出来ない面も多くありますが、いつでも会員の皆様の御意見、御希望等、電話なり手紙なりでおきかせ願えれば、出来るだけ反映させていきたいと思っています。

今年度活動の主なものは次の通りです。

### 主な活動の記録

1月9日(日) 拡大役員会 於 北農健保会館

△議題Ⅴ 会員の現状掌握と「パーキンソン氏病友の会」をどう分離独立させたらよいか。会則の予備討議。

2月13日(月)

難病連理事会 大久保出席

△議題Ⅴ ① 昭和52年度、諸情勢及び活動方針案、予算案についての予備討議。

- ② (財)医療福祉協会構想について  
③ 全国の患者総決起集会(仮称)について  
④ チャリティーバザー、合同レクリエーションについて

2月20日(月)

講師

パーキンソン氏病患者の研究集会 於 自治会館  
東京都立府中病院副院長 宇尾野公義先生 参加人員75名  
北大医学部脳神経科講師 佐藤正治 “  
札幌医大脳神経科助教授 宮崎雄二 ”

2月27日(日)

あすなる会臨時総会 於 北農健保会館

△議題Ⅴ ① 会則の改正について 出席者18名

- ② しおりの作成について  
③ パーキンソン氏病患者の会北海道支部設立について  
④ 新会則にもとづく新役員の選出  
⑤ 役員会を開催し分担を決める。

3月21日(月)

難病連理事会 大久保出席

△議題Ⅴ ① 昭和52年度予算案討議

- ② 活動報告(案)、方針(案)他検討

3月26日(出)

役員会 於 北農健保会館

△議題Ⅴ ① パーキンソン氏病患者友の会創立総会につ

いて

② 難病連主催のバザーに対する協力について

4月3日(月) 難病連バザー 於 西区民センター 労務提供者7名

4月17日(日) パーキンソン氏病患者友の会北海道支部総立総会

於 北農健保会館 参加者80名

4月24日(日) 難病連第5回定期総会 於 北農健保会館

当会より参加者5名

5月17日(火) 難病連合同レクリエーション実行委員会 成田出席

6月11日(出) 役員会 於 北農健保会館

△議題▽ ① 「あすなろ」特集号発行について

② 難病連第一回合同レクリエーション参加について

ついで

6月26日(日) 難病連第一回合同レクリエーション 於 滝野自然学園

当会よりの参加者3名

7月23日(出) 役員会 於 同友会事務所

△議題▽ ① 難病センター構想に対する意志統一

② 会員との接触をどうすすめるか

7月23日(出) 難病連理事会 於 難病連事務所

大久保・成田出席

7月28日(木) 難病連理事奉会 大久保出席 於 難病連事務所

△議題▽ 難病センター建設について

8月4日(木) 難病連理事会 大久保、太田出席

△議題▽

8月6日(出) 第5回難病患者・障害者と家族の全道集会

当会よりの参加者6名

8月31日(水) 難病連拡大理事奉会 成田出席 於 難病連事務所

9月13日(水) 北海道に対し、難病連、各加盟団体が「北海道における難

病対策に関する要望書」を提出。

10月29日(出) 役員会 於 北農健保会館

△議題▽ ① 機関誌「あすなろ」の原稿応募状況の掌握

② 難病センター募金箱の配付

③ 第5回定期総会の日取り決定

機関誌の発行

1月10日 「あすなろ」第57号を発行

3月10日 しおり「あすなろ」第58号を発行

7月10日 特集号「あすなろ」第59、60号合併号を発行

## 一、五十二年年度財政報告

引きつづき会長より次表の通り財政報告がありました。会費の納入状況は約半数を越えましたが、まだ納入のお願いに対してお便りのいたでない方もいます。又、シャンプー販売による利益、賛成会員が増えた事により健全な財政で一年間運営出来ました。

財政報告( 51.11.1 ~ 52.10.31 )

取 入 の 部		支 出 の 部	
前 期 繰 越 金	156,203円		
会 費 (44名)	84,100 "	第 4 回 総 会 費 用	32,520円
賛 助 会 費 (28名)	57,200 "	役 員 会, そ の 他 会 合 費	13,400 "
道 補 助 金	120,000 "	通 信 費	15,608 "
寄 付 金	24,640 "	印 刷 費	74,160 "
シ ャ ン プ ー 代 取 入	22,400 "	パ ー キ ン ソ ン 氏 病 友 の 会	55,090 "
銀 行 預 金 利 息	147 "	独 立 援 助 費 金	50,000 "
		難 病 連 分 担 金	
		封 筒 ・ 用 紙 代	4,638 "
		ゴ ム 印, ス タ ン プ 台 地	4,550 "
		香 典 ( 河 端 さ ん )	2,000 "
小 計	464,690円	小 計	251,966円
		次 期 繰 越 金	212,724円
合 計	464,690円	合 計	464,690円

( 法 人 ) 会 の 現 勢 は, 正 会 員 85 名, 賛 助 会 員 68 名, 合 計 153 名。

## 一、会計監査報告

佐藤梅子さんより、会計簿、領収書、現金等対照の結果報告通りまわ  
がいが報告されました。

## 一、質疑応答

五十二年度活動報告、財政報告、監査報告に対し質疑応答があり、報  
告通り承認されました。

## 一、五十三年度の活動計画と予算案説明

大久保会長より、活動計画と予算案説明があり、この中で、病弱な人  
達のこの会の運営の困難さを克服し、悩みを一人で抱えこまないで、出  
来ることから一つ一つ解決し、その重点として、①機関紙活動の重視、  
②役員と会員、会員同志の交流を深めること、③医療・生活相談を日常  
的に行える体制を確立することを柱に進めていく事、そのためには、日  
常的に会員の皆さん一人一人の意見をいつでも言っていただくよう呼び  
かけました。

予算案は次表の通りです。

予算案(案)(52.11.1～53.8.31)

取 入 の 部		支 出 の 部	
前期繰越金	212,724円		
会費(80×2,400)	192,000〃	第5回総会費用	0,000円
賛助会費(30×2,000)	60,000〃	会 合 費	55,000〃
道 補 助 金	120,000〃	通 信 費	100,000〃
寄 付 金 其 他	40,000〃	印 刷 費	180,000〃
		難 病 連 分 担 金	50,000〃
		予 備 費	50,000〃
小 計	624,724円	小 計	475,000円
		次 期 繰 越 金	149,724円
合 計	624,724円	合 計	624,724円

一、五十三年度の活動計画と予算案に対する

質疑応答

それぞれ意見が出され、提案通り承認され五十三年一年間活動していく事に決まりました。

一、役員を選出と新役員の挨拶

新しく役員になっていただけの方もいる中で、仕事や、身体の具合が悪くて出来ない方がほとんどで、現役員全員留任と決りました。亡くなられた原満さんの補充はせず運営していく事になりました。昨年以上の活動が出来るよう役員一同頑張っていきますが、会員の方の一層の御協力をお願い致します。

会 長 大久保 尚 孝  
副会長 太田 隆 男  
" 成 田 正 憲  
" 重 全 尊  
理 事 佐 藤 梅 子  
" 土 屋 知 代  
会計監査 橋 本 央 子

一、閉会の挨拶

約一時間半に及ぶ熱心な討論により来年度の新たなスタートを切る事になりました。橋本さんの名司会により会議も順調に終り閉会しました。

総会の出席者は次の通りです。

橋	太	成	重	鳥	大	大	杉	石	市	土	佐
本	田	田	金	山	久	久	山	川	場	屋	藤
央	隆	正		秀	キ	尚	和	と	阿	知	梅
子	男	憲	尊	夫	ヨ	孝	子	き	其	代	子

# 研究促進、治療法確立訴え 北海道 一斉に署名行動

【札幌】難病患者と家族たちによる初めての全国集会在四月二日から東京で開かれますが、これに参加する北海道の難病患者、家族たちが二十五日、札幌、旭川、函館市など九市町で全道いっせいに街頭署名をおこないました。札幌市では午後一時から難病患者ら約四十人が大通り西四丁目まで難病の研究促進と治療法の確立などを求める「国会請願百万人請願署名」の協力を訴えました。

筋無力症やパーキンソン氏病などからだの不自由な難病患者と家族が街頭に立つて署名を訴えたのは道内では今回が初めてのこと。それだけ難病患者と家族の力だけでは支えきれないところまできた難病問題の深刻さがあります。二百とも三百ともいわれる難病のうち厚生省が難病に指定しているのは十九疾患だけ。北海道で公費負担は二十四疾患しかありません。

街頭で署名を訴えていたダウン症児をもつ大杉寿美子さん(三三)は「ダウン症は難病にも指定されていないんです。治療法の研究もまだまだ。政府はもっと難病対策に力を入れてほしい」と真剣な表情。また二十歳のむすこが難病患者だという大久保キヨさん(四七)も「治療法もなく、

このものの病気が進行するのをみてはなにもしてやれないのはやりきれない。全国集会で難病対策の充実を訴えたい」とのべていました。

なお、四月二日・三日の両日にわたって開かれた全国集会には「あすなろ会」を代表して大久保キヨさんが難病連の皆さんと一緒に参加されました。





## 第五回あすなる会総会によせて

# 各団体よりのメッセージ

本日は、北海道難病連加盟各団体役員の学習と交流を兼ねた「北海道難病連理事研修会」のために大変残念ですが出席出来ません。

北海道に本格的な難病対策を確立される第一歩として、北海道難病センターの建設推進運動に、あすなる会の皆様が先頭に立たれて奮闘されることを期待します。一日も早く私たちの困難と現状が解決されるよう、共にがんばりましょう。

### 北海道難病連

事務局長 伊藤 建雄

都合により出席出来ませんが、御盛会を祈り上げます。

### 北海道スモンの会

代表者 斉藤 政興

北海道難病連理事研修会の為、欠席させていただきます。第五回総会の成功をお祈り申し上げます。

### ひまわり会

代表者 藤沢 紀夫

御案内ありがとうございます。あいにく難病連の理事研修に参加しますので、残念ですが欠席させていただきます。

### 全国膠原病友の会道支部

代表者 寺嶋 礼子

御盛会をいのります。

### 互寮会北海道センター

代表者 伊藤 吉雄

現在全道に一〇〇名あまりの会員がいます。無料検診で新しく患者を発見、患者や家族の方の経済的・専門病院のないこと、通院のなやみ等、沢山の問題をかかえて役員一丸となって難連のアドバイスで、特定疾患に道の段階での指定を受けるべく運動をしています。今まで「あすなる会」の会員の皆さまの土台作りの上に目的達成にまいしんいたします。今後共よろしくお願い申し上げます。

### 全国パーキンソン病友の会道支部

代表者 田中 勇

御案内ありがとうございます。御盛会を祈念しております。

### 道血友病友の会

代表者 福川 宗二

## 会 員 よ り

総会のお知らせがありがとうございました。今回も欠席致します。あしからずご理解下さいませ。

各部関節の痛み、頭痛、腰痛と、くり返し悩まされながら、二週間ほど一度の通院しております。のみ薬は二週間分です。小型手さげいっぱいいただいて、なおリンデロンは現在一日おきになりましたが、もう二年続けています。

夏分は案外と体調が良いのですが、寒さに向うこれからは地獄です。体調の良い時など一度会合に参加したい意欲があったりしますが、何としましても全ろうのためにも出不精勝ちの状態です。会に對しましては同じ病弱の身でありながら、先に立っていらっしゃる皆様には心から感謝申し上げます。これから雪と凍りの半年間ですね。ご無理をなさらずお体大切に。

藤 原 コ ト

この頃心臓がわるくなってしまい、大事にすごしています。「脈なし病病友会」処々からの問い合せをもとにしてすゝめています。東京、千葉等にまず支部をつくるつもりです。「あすなる会」の御発展を祈ります。皆様によろしく。

原 た か

私は現在勤めておりますので、勤務上多忙で出席出来ません。土・日、祭日等一切休む事も出来ず、会を止めざるをえなくなりました。どうぞ皆様によろしくお伝え下さい。

川 埜 英 治

都合で残念ですが出席できませんので、よろしくおねがい致します。

小 川 久 夫

しばらく会合に参加しておりませんので、今回は参加させていただきます。尚、昨年より移転しました。どうぞよろしく。

藤 田 道 子

アルバイト中です。多少疲労感がたまっているようです。今回も用事が重なり出席できません。

鈴 木 薫

ご無沙汰致して申し訳ございません。かぜをこじらせてますので欠席させていただきます。会員の皆様によりしく申し上げて下さい。役員の皆様ご苦勞様です。心から感謝申し上げます。

中 村 信 子

御ぶさたいたしております。おハガキ拝見いたしました、あいかわらず忙しく御活躍の御様子、感心いたしております。

十二月初旬にようやく家が出来上りになりそうで、只今電気、クロスその他で走りまわっており、今回は残念ながら欠席させていただきます。

関 山 慧 子

都合により欠席します。皆さまによりしくお伝え下さい。役員の皆様さまによりしくお伝え下さい。役員の皆様御苦勞様です。

平 尾 敦 子

### 賛助会員より

唯闘病の一念で頑張ってます。難病センター建設に大賛成です。難病者同志の意見交換は大いに活発にすべきと思います。

風 間 栄 一

皆さんどうぞがんばって下さい。

西 田 喜代子

いろいろと御活躍ごくろう様でございます。当日は子供を連れましてコンサートに行くことに前から約束してありましたので申し訳ございませんが欠席させていただきます。御盛會お祈りいたします。

菅 原 尚 子

その後お変わりなくお元気の事と存じます。何もお手伝い出来ないうちにどんだん日がたってしまっ申し訳ない気がしています。二六・二七北湯沢に行く事になっていきますので、本当に残念ですが欠席いたします。皆様によりしくお伝え下さいませ。

畠 山 光 子

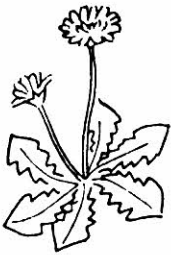
先日はあすなる会の文集に掲載して頂くと共に送付して頂きありがとうございます。難病と闘っておられる方の手記、胸を打たれると同時に健康で暮らせる事のありがたさを思い返しております。

総会は以前の予定の為出席出来ませんが、皆様の御体が少しでも良くなる様、心からお祈り致しております。

荒木 佳代子

家庭の都合により、出席出来ません。皆様によりしくお伝え下さい。

藤田 千代子



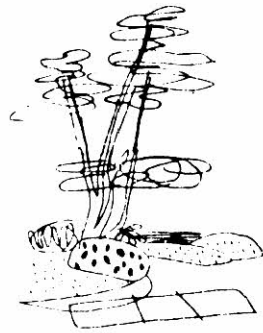
## 編集後記

さまざまな病気を抱え、その悩みもいろいろ、「あすなる会」の会員やその家族を結ぶ便りが機関誌「あすなる」です。機関誌の果たす役割りがとても大きい私たちの会、それが解つていながら発行がおくれてしまつて申訳ありません。この号は、重金さんのお骨折りによつて、できあがりました。

東京にも「あすなる会」と同じような会が生れ、四月の全国総会で交流することができました。そこで学んだことは、機関誌を文字通りみんなで作くり、みんなで読んで、励まし合つていく姿だったそうです。

この号を読んでお感じになったこと、最近の病気や生活の様子など、なんでも結構ですから最後に綴じ込んであります『会員通信』でお便り下さい。

(0)



会  
員  
通  
信

切  
り  
取  
り  
線

お便りをおまち  
しています。

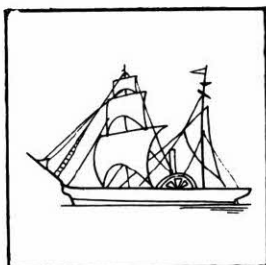
〒番号  
住  
所  
TEL  
お  
名  
前  
病  
名

送り先

札幌市

大久保 尚 孝 行

● H S K通券六一号 ● 昭和四八年一月十三日第三種郵便物認可 ● 昭和五三年五月十日発行(毎月十日)



あすなろ 第26号 H S K通券第61号  
昭和53年5月10日発行  
編集人 個人参加難病患者の会「あすなろ会」  
〒063 札幌市西区山の手7条8丁目  
大久保尚孝方 電話 011(611)0575番  
発行人 北海道身体障害者団体定期刊行物協会  
札幌市中央区北1条東4丁目 本間武司方